

平成 27 年度第 2 回大分市子ども・子育て会議における事前意見について

設問 1. 今の子どもに何が必要か。

委員	事前のご意見
安東委員	<p>道徳教育の充実、自己肯定感を持てる育児、保育内容と学校教育、ボランティア活動への参加、安心安全な学校作りのための環境づくり。 ※子どものいじめや不登校等の対策</p>
小野委員	<p>子どもの心育てが望まれる。とりわけ家庭での基本的な生活習慣を保護者がきちんと指導することが大切である。基本である「挨拶」と「礼儀」を小さい頃からきちんと身に付けさせたい。「挨拶」は家庭や学校ではもちろん地域社会で欠くことはできないし、また「礼儀」は社会生活を行ううえで最も大切なことだからである。実生活の中で、機会を捉え的確に指導する必要がある。</p> <p>また、保護者の理念に基づいた「価値観」「人生観」を子どもの成長段階に応じて躰と道徳観を含めて指導したい。子どもがもの心ついたときから小学校生のうちに行うべきと思われる。最近では、核家族で各人が多忙であり、家族揃っての食事や団欒も取れない家庭が多いので、人生経験が豊富な祖父母から生きる知恵を授かることも減少している。少子核家族の社会でこそ、地域の教育力が求められる。</p>
後藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できる場所、愛されていると実感できる家庭、仲の良い両親等、自分は唯一の大切な存在だと思える自尊感情を高めることができる環境。 (子どもの心が育つように見守り、善悪を正しく教える) ・ 道徳教育が必要。特に子育てをする側にも共感性が備わっていないと道徳心が宿らないのではないか。 ※人の弱みに付け込んだり、遊びの中でも首を絞めたりする行動は、なぜそれをしたら悪いのかが子どもの中で理解できていない。注意されると「怒られたからするのを止めた」くらいにしか感じていない。テレビゲームの中にもそういったことが、子どもの興味をかりたてている。家庭内でも社会でも規制すべきだと思う。 ・ 社会生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。思いやりの心を育てる。 ・ 挨拶や返事をきちんとする。しっかり相手の目を見て話す。 ・ 親子のコミュニケーションや親子で過ごす時間を作る。 (子ども一人ひとりの話を聞いたり、遊んだり、とかまってあげる) ・ 大好きな親からの愛情 ・ 情緒の安定や危機管理能力 ・ 様々な大人と触れ合う機会 ・ 育成クラブの充実

佐藤委員	<p>子どもらしさや多くの人と関わり、また体を動かすことや安心して遊べる環境が必要。</p> <p>その他にもバランスのいい3度の食事やメディアとの付き合い方の見直しが必要。</p>
島田委員	<p>グローバル社会だが、その前に自分の住んでいる地域等を愛し、そして知るといふ郷土愛が少し薄れていると感じる。</p>
瀧澤委員	<p>昨今のいじめ問題は愛情不足もしくは愛情を受けたことが極端に少ないため、人を思いやる気持ちや相手の立場に立っての行動ができなくなっている。</p> <p>また、そこから面白半分にいじめが始まりエスカレートしていると思う。</p>
多々良委員	<p>人間味あふれる子どもを育てるにはどうすれば良いか考えることが重要で、その力を醸成するための教育や支援が必要。</p> <p>具体的には「語彙力の醸成」、「感情表現の幅を広げること」、「ないない族を失くす教育」を行うことで人間味あふれる子どもに育つのではと思う。</p> <p>※語彙力の醸成・感情表現の幅を広げる。</p> <p>企業経営者が今の若者に不足している力として挙げるのが「語彙力」です。一問一答の若者が多く、ボキャブラリー少ないため話が上手く伝わらず、職場での人間関係に苦慮するケースや、業務の報告・連絡・相談を行う際、語彙が少ないため話の内容が伝わらず注意される等、離職に繋がるケースが多い現状がある。</p> <p>※「ないない族」を失くす教育</p> <p>「ないない族」とは、間違えられない、失敗できない、分からない、助けてと言えない若者達のことです。間違えることが学びとなり、失敗することで成功に近づく、そして他人にSOSを出すことで困りが解消されます。集団の遊びの中で、間違いや失敗を重ねながら成功体験を経験したり、ケンカして仲直りする、助け合うなどしてコミュにケーション力を身につけます。子どもの頃から集団で「遊ぶ場」を持つことが「ないない族」をなくす鍵となるのではないかと考える。</p>
堤委員	<p>「愛されているという実感」、「今のままでいいんだという自己肯定感」を育てるには何といても「家庭」であろうと思う。これらは親子、兄弟の関わりの中で育まれていくものであると思う。</p> <p>自分という存在に自信を持っている人は他人からどう評価されようと根幹が揺らぐことはない。それは自分を自分が評価できているからである。</p> <p>まずは、親の無償の愛がいつの時代も必要なものだと思う。</p>
長田委員	<p>親及び地域で守る愛情が不足していると感じる。</p>

<p>淵野委員</p>	<p>自尊心、自己肯定感、コミュニケーション能力、失敗を恐れない気持ち、やってみようという気持ち、自分の気持ちを相手に伝える力、物を大切に扱う気持ちなどが必要である。</p> <p>働く母親の増加に伴い、仕事をしているからという理由で子どもを叱ることが多くなったり、子どもの気持ちに寄り添う出来なくなったり、子どものちょっとした心の変化や表情に気づかなかったりなど、また、10分あればできる絵本の読み聞かせひとつできない親が増えてきたことを危惧している。</p> <p>働く親のために至れりつくせりの施策が親子の絆を結ばなくしているようでとても心配である。幼児期にしっかりと絆作りをすることがどれだけ子どもに必要で大切なことかを今こそ真剣に考える時だと思う。</p>
<p>分藤委員</p>	<p>強い目標が必要</p>

設問2. 安心して子育てができる環境とは

委員	事前のご意見
安東委員	待機児童数の解消についての取り組み、保育提供体制の確保が必要である。相談体制の充実（妊娠・出産・育児）
小野委員	家庭が安定していることに尽きる。普通の生活が普通にできることが大切。
後藤委員	<p>家族がバラバラになっていて機能していないように思われる。できるだけ三世代が同居し、世代が違う家族が上手く機能していけば安心できる家庭（子育て）ができるだろうと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親を必要とする時間だけでも家庭で子育てができるような社会 ・一度職場を離れても子育てがひと段落したら確実に職場に戻れる環境 ・何でも相談できて頼れる人が身近にいる環境 ・地域全体で子育てをする環境づくり ・保護者が仕事をしている間、安心して預けられる子どもの居場所の増加 ・おじいちゃん、おばあちゃん世代の方々の協力で声掛けをしてもらう。 ・仕事で急にお迎えができないときや病気するときなどに保護者の代わりに対応してくれる制度が充実し、気軽に利用できるといい。
佐藤委員	核家族化の進行や共働き世帯・ひとり親世帯の増加から子育てを母親一人で抱えることが多い。しかし、子育ては周りの協力を受け、多くの人の力を借りながら一緒に行っていくことが必要であり、そのためには信頼できる人に預けられるように保育園、子育て支援施設、学童保育の充実が必要である。
島田委員	家庭における経済的に安定した環境
瀧澤委員	<p>地域や人との関わりがあれば安心できると思うが、現在はそれが薄い。保育の先生、こどもルーム、公民館の家庭学級などの先生・関係者がもっと親にアドバイスしてあげてもいいのではないかと思う。</p> <p>※本やインターネットも良いと思うがもっと生の声・本音で話せる機会があれば親や子も救われる。</p>
多々良委員	<p>子どもが外で自由に遊べる環境をつくることで、子どもが子ども自身の力で成長する、そんな環境が安心した子育てに繋がるのではないかと考える。</p> <p>若者の現状から見ると、思考力が停止する、一歩踏み出せない、集団が苦手等の問題は、外で集団で自由に遊ぶことができない育ちに起因しているのではないかと、脳の発達構造から見てとれます。</p> <p>日頃、集団で遊ぶことが少ないため脳発達が未成熟で、コミュニケーションが取れない子どもや感情表現が希薄な子どもが増えているのではないかと感じる。</p>

長田委員	指導員さん方の教育を徹底するようにしてもらいたい。
馬場委員	<p>両親共働き家庭の子どもを預ける放課後学童保育が充実している環境。働いていない親の子どもも預けられる仕組みを作れるといい。</p> <p>定年退職などをし、能力も体力もある方々が学童保育に携わり、何らかの教育を施すなど高齢者と共働き世帯の子どもたちがマッチングできる環境を作ることができるといい。</p>
淵野委員	<p>働く親の増加に伴い「子育てを忘れ働くことは本末転倒であること」をもっと言っていける環境（保育園であり、認定こども園であり、幼稚園など）を意識して作っていかないといけない。そのためには、子どもに関わる大人が子どもをきっちり育てていくという心意気（本気度）にかかっている。</p> <p>また、子ども達一人ひとりが「子ども時代が楽しい」と思えることを真剣に考え整える必要がある。</p> <p>厳選された良い絵本を毎日一冊読み聞かせしてもらえる環境（家庭・園）が必要である。</p> <p>大分市全体で、子育てを楽しむ姿、共に笑い、家族のありがたさを感じながら子育てを実践している家族、母親をもっと前面に押し出す活動を整えることが安心して子育てができる環境につながっていくと思う。</p>

設問3. 子どもの貧困対策について

委員	事前のご意見
安東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困からくる子どもへの虐待防止対策 ・ ひとり親家庭への経済的支援
小野委員	<p>親の貧困がそのまま子どもの貧困になっている。日本は、格差社会が進行していると思われる。貧困は連鎖に陥りやすく、格差が広がれば、さらに子どもの貧困も拡大することが心配される。ひとり親、とりわけ母子家庭の生活の深刻さを抱えている状況が報告されている。</p> <p>貧困を抱える家庭が生活の困難さを訴えにくい。周囲の人々に貧困の実態が見えにくい。そのため、子どもの貧困問題への対応が後手になりやすい。子どもの貧困が社会問題になっているが、その実態ははっきりしていない。子どもの貧困は、日々の生活に圧迫され、高校や大学進学に問題が生じている。</p> <p>大分市において、小中学校生の就学援助を受けている子どもの数はどれだけあり、就学援助数の推移を知りたい。</p>
後藤委員	<p>お金を配っても本当に子どものために使われているかわからない。貧困のため、塾に行けず学力が低下している子には、放課後を利用して教職を退職された方や、大学生を雇い、子どもの学力向上の手助けをする。また放課後を利用して遊びや運動を教えてくれる等の支援員さんがいるといい。</p> <p>その他に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母子家庭や父子家庭が増えているため、貧困家庭も増えていく。何のために結婚して子どもを育てるのか、家族の役割や絆をもっと意識して伝える必要がある。 ・ 社会的擁護の充実（安定した収入があり、保障された生活をつくる） ・ 夏休みも給食があるといい（昼食だけでも栄養バランスを考えた食事ができる）
佐藤委員	<p>ひとり親家庭への支援やサポートの充実を図る。 例えば、母子生活支援施設やその後の母子の生活をサポートする施設の充実。</p> <p>ひとり親家庭の子どもや養育施設に育つ子どもが塾に通えなくても十分な学習ができるよう、また希望する学校へ進学できるようにすることが必要。</p>
定宗委員	<p>子どもの貧困の割合は6人に1人の割合だと聞いている。貧困の連鎖を断ち切るための鍵は教育支援と言われている。</p> <p>昨年4月より始まった生活困窮自立支援制度について、特に子どもの貧困</p>

	<p>対策で大分市が対応した件数や事例等を聞きたい。会議に出席すると他の県の方々より、この支援の制度は入口は広いが出口が狭い」と聞く。</p>
瀧澤委員	<p>学校でセーフティネットに関する情報を子どもに対して提供する必要があると思う。</p> <p>貧困に苦しんでいる子どもだけでなく、それ以外の子どもに対しても情報を提供することができればいざという時に将来の展望が開けるのではないかと思う。</p>
多々良委員	<p>食事を十分に摂れていない子どもや学力不足の子どもを受け入れる「居場所」を作ること、そして居場所でソーシャルスキルトレーニングを行うことが必要と考える。</p> <p>貧困家庭の問題は、十分な食事を与えてもらっていないこと、学力不足による学歴の問題、親が親としての機能を果たしていないことが挙げられる。</p> <p>若者支援の現場で貧困家庭に育った若者の問題は深刻である。サポステで支援を行う際、交通費がないのでサポステまで来れない、すぐにでも働かなければ生活ができない等の問題で、本人が抱えている根本的な問題解決に至らず貧困の連鎖が続いていく。このことから早期段階で支援の手に繋がるシステムが必要と考える。</p>
堤委員	<p>子育て世帯の貧困を「早期発見・早期支援」する必要があると思う。そのために、子どもが生まれる前から、貧困のリスクを抱えているであろう妊婦を見つけ出すために母子手帳を受け取る際にアンケートなどで情報を集め、支援に繋がる手がかりを得られればよいと思う。</p> <p>子どもの貧困は虐待や不登校、非行など様々な問題に繋がる恐れがある。子どもの将来に大きな影響を与えるからこそ深刻化する前に支援の手を差し伸べられると良いと思う。</p>
淵野委員	<p>こんなに幸せな日本の中で子どもの貧困という言葉がメディアを通して耳にしたとき、「どういうことだろう?」「日本はどうなっているのだろうか?」と驚いたことを思い出す。</p> <p>「人」が人として育つときに受けなければいけなかった「教育」が欠如したことによるものだと思う。</p> <p>価値観の再考が必要。人として大切なもの(こと)、規範意識構築をすることで親として備わっていなければならない最低のルールや生活基盤の確立などができるのかもしれない。</p> <p>※子育ての連鎖→良い文化の継承</p>
分藤委員	<p>誰が誰を助けるのか見えない社会になっている。</p> <p>教育力の低下が国力の低下を招いている。</p>

設問4. 子育ても仕事もしやすい環境について

委員	事前のご意見
安東委員	ワークライフバランスの促進のためには事業所や市民の理解が必要。 若者の雇用対策や正規雇用の促進
小野委員	<p>女性が一度職場を去ると、復帰することが難しいのが現実化している。特に、母子家庭では、母親が非正規、アルバイトや掛け持ちの仕事で日々努力しているものの、収入は限られるし体力的精神的にも行き詰っている。母親が仕事をしながら子育てをきちんとすることは難しい。行政の援助が大切ではあるが、経済的に自立できるような支援を考えたい。</p> <p>格差と競争が進む社会でこそ、教育を第一に取組む時期が来ているし、もう待てない。</p>
後藤委員	<p>職場に保育施設を設け、昼休みや何かあった時にすぐに駆けつけることのできる環境。また、安心して子どもを預けられる放課後児童クラブや保育施設を増やし、内容の充実を図る。</p> <p>時差出勤や短縮勤務等を取り入れ、働きやすい環境にするとともに、子育て中の家庭への就労時間・休暇・給与の見直しを図る。</p>
佐藤委員	<p>結婚や子どもの有無に関係なく、働きやすい環境が大事。</p> <p>例えば、子どもが病気のために仕事を休まなければいけないときに、周囲の人々（独身者等）の負担が増えてしまう。どんな立場でも、お互いのために快く働ける職場にするように上司が配慮することなどが必要。</p>
島田委員	企業・社会の理解が必要。
瀧澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病児保育の施設を増やすことが必要。 ・ 父親の子育て参加を増やすことや、子どもとの時間を確保しやすい時間帯の業務時間の選択、在宅ワークの推進が必要。
多々良委員	<p>共働きの家庭で子どもが急な病気になった時にどうしても仕事が休めない等の事情がある母親が優先的に子どもを預けられるシステム（場所）や、特に母子家庭で、母親が朝から夜まで働く家庭の子どもに対し、安価もしくは無料（条件付き）で、子どもを預けられる場所があると子育ても仕事もしやすいのではないかと。</p> <p>子育てに悩んだ時や前述のことで悩んだ時に、気軽に相談できる場があるといいかと思えます。相談する場があっても大半の市民が知らなかったり、開所時間中に行けないという現状がある。</p> <p>よって末端まで周知する広報や時間外で相談できるようなシステムが必要だと思う。</p>

馬場委員	<p>実際のところ企業ではワークライフバランスは難しい。子育て中の女性は、時間的制約などもあり、責任ある仕事は任せづらい。その結果、子育てをしていない人々がその分の責務を負い、負担が増える。子育て中の人々が他の人と同じレベルで仕事を続けるには本人も自覚を持ち、短い時間でも高いレベルの仕事をすべき。たまには、両親や夫の理解を得て子どもの面倒を見てもらう覚悟も必要。そのためには、社会の仕組みも保育所の仕組みも学童保育等も働く母親のために大きく変わらなければならないと思う。自分も子育てをしていたから言えるのだが、子育て中とって周囲の人たちに甘えながらの仕事では中途半端な仕事しかできないので企業としては困る。</p> <p>企業としても様々な努力をし、働らきながら子育てをする方もたくさんの努力をし、行政も仕組みを変えていかなければ、今後も子育て中の方が仕事を続けていくことは難しい環境にあると思う。</p>
淵野委員	<p>「結婚を前提にした職場環境」、「妊娠を前提とした職場環境」、「出産を前提とした職場環境」、「1歳までの育児を前提にした職場環境」などを考えた時、勤務時間の変更、組織内での暗黙の了解、助け合い職場（困った時はお互い様）、当たり前と思う雰囲気はトップの意識改革で決まると思われる。</p> <p>我が子を育てられないで、人様の子どもは育てられない。</p>
分藤委員	<p>そのような環境がおかしくなっているので、夫婦関係もおかしくなっていると感じる。</p>

設問5. その他

委員	事前のご意見
安東委員	幼児期の健診で5歳児健診の実施や発達障がい児への支援の強化
小野委員	子どもは、厳しく叱られ、指導されることが少なくなってきた。また、けんかもしない仲良しクラスであるが、いじめは多く発生している。地域社会や学校でも人間関係の問題に踏み込むには相当のエネルギーが必要である。そのため問題から目を逸らさず正面から対処するべきである。
後藤委員	<p>小学校の先生が忙しすぎる。クラスも多人数よりも少人数制で、先生の数を増やし、子ども一人ひとりに細かい対応ができるようになれば良いと思う。</p> <p>妊婦の時や子育て中の子ども保護者が、子どもが育つ発達段階・何が必要なのかを学べる環境や、保護者自身の自尊感情を高めることのできる環境、ストレスを溜めなくて吐き出すことのできる環境が必要。</p> <p>今、インターネットなどで、子育てのいろいろな情報がわかるようになっていますが、その環境にない家庭や、パソコンを操作できない家庭がいかんして情報を得ることができるとかを考えなくてははいけない。</p>
定宗委員	<p>このところ「大分市母子福祉資金等貸付審査会」が急に少なくなりましたが、その要因は何でしょうか。他の制度を利用しているということでしょうか。</p> <p>母子家庭が経済的にある程度安定した生活が出来るまでの環境が整ったと考えてよいのでしょうか。</p>
瀧澤委員	<p>里山での暮らしや知恵、また少し前まで当たり前だった物作りの技術など、たくさんの方が大分にはある。</p> <p>ゲームやスマホなどより、もっと楽しい時間を大人は子どもに教えていかなければいけません。親世代では教えられないことや知らないことノウハウを地域の皆さんに教えてもらうためには行政のつなぐ力が必要です。子どもが体験・経験する力を増やす場所を提供していただきたい。</p>
平野委員	助けが必要なのに助けを求めない、また求め方が分からない家庭への支援のあり方について何か具体的な対策があれば教えてほしい。
淵野委員	<p>働く親が受けているすべての支援は本当に子どものものであるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働かなければならないのか、それとも、ただ働きたいのか。 ・自由な時間を保つための就労になっていないか。 ・子どもの幸せを一番に考えた就労の仕方とは。

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを預けた方が「楽」という意識が心のどこかにないか。 ・小さくても子どもは親の言動をじーっと見ていることを知り、親になるということはどういうことか。 <p>など、親になることの責任と親になった以上は自覚しておかないといけないことを忘れない、許さないように、大分市の子育てを創造していけるように手を繋ぎたい。</p>
分藤委員	もっと根本的な改革をしなければ、日本はなくなってしまう。